

つきたい力

- ・活字に親しみ、主体的に学ぶ力
- ・語彙力の向上
- ・自分の思いを表現できる力
- ・情報活用能力

取組みの概要・ポイント

- ・学校図書館や学級で、児童が自ら本に親しむことを通して、基礎的な言語能力や読解力を育む。
- ・資料を用いて、調べ学習をし、調べたことを発信することで、情報活用能力を育む。

具体的な取組みの内容

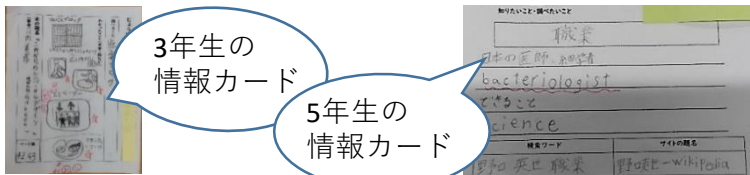
①学校図書館を活用した授業づくり～情報活用能力を育むための授業～

○教科横断的な授業へ

学校図書館を活用するためのしかけとして、4年生の音楽の授業の導入で、国語科「こわれた千の楽器」の学習と関連づけて絵本の読み聞かせを行った。そして、音楽から広げて国語科へと漢字の成り立ちや語彙の習得の学習へつなげ教科横断的な指導に取り組んだ。また、社会科の調べ学習で得た情報をもとに、家庭科の調理実習へつなげる教科横断的な授業を行った。

○情報活用能力の育成へ

学習の場面だけでなく、学校生活のいろいろな場面で活用できるように、低・中・高学年ごとに『情報カード』を作成し、活用するようにした。低学年では、目次や索引の指導を、中学年以上には奥付を見て情報カードに出典を記載するように指導した。



②本に親しむ場づくり～学びの機会を増やす～

・児童が知りたい！調べたい！と思えるように、授業に関連する本や資料はもちろん、児童がそれをきっかけに興味や関心を広げた時に対応できるように、様々なジャンルの本を排架。



・学校図書館に来た時に楽しみながら言葉の学習ができるように、漢字クイズなどを展示し、語彙が身につけられる場をつくった。

・様々なジャンルの本を読む機会をつくるために、日本十進分類法に沿ったくじ引きの作成。→引いた数字の本棚から本を選ぶシステム。



・朝の読み聞かせ活動の拡大
→2年間は、SE担当が朝の読み聞かせの時間にクラスで行っていた。読み聞かせをした後は児が落ち着いて授業に臨むことができた。そこで、3年目より全教員による読み聞かせ交流を実施。

取組みを通しての子どもの変容

- ・学校図書館が身近な存在となり、来館者数の増加はもちろんだが、憩いの場となり心の拠りどころとなっている児童が増加した。
- ・読書が好きな児童の増加 R1・・・64% R2・・・65.5% R3・・・73.4%(児童アンケートより)
- ・本やインターネットなどで調べたことをもとに、自分の考えをまとめて書いたり、話したりしている(4月48%→12月56%)
- ・情報カードを活用することで、必要な情報を取捨選択できるようになってきた。
- ・わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネットなどで調べている(4月69%→12月72%)